

## 私の中国留学

国際文化学科 2年 池田理紗

私は2015年8月30日から2016年1月9日の約4か月間、中国の北京にある北京師範大学に留学していました。私は幼いころから海外に興味を持っていました。なので、いつか留学していろんな国の人と関わりたいなと思っていました。私がこの大学を志望した理由にも派遣留学制度があったからです。そのため、4年間の大学生活で派遣留学は私にとって一大イベントでした。その一大イベントの派遣留学を有意義なものにしようと決めていました。

中国に留学することを決めてから出発する日が近づけば近づくほど胸の高鳴りが大きくなっていきました。ですが、出発の1か月前近くになると不安と焦りが出てきました。特に中国語を話せるわけでもなく、初めての海外でしかも4か月間初めての場所で暮らします。そんな環境でやっていけるのか不安でした。ですが、希望や期待もあり自立するいい機会だと思い前向きに考えていました。出発当日、不安と希望を胸に抱え家を出て友達と合流し、成田空港に向かいました。成田空港では飛行機が混雑していたため、私たちが乗る飛行機が約4時間遅れて日本を発ちました。中国についたのは夜中の12時を過ぎていました。私たちは大学につき寮でチェックアウトをしました。そのとき、私は4か月間共にするルームメイトを教えられました。彼女は「ベラルーシ」という国の方でした。どんな方なのか緊張しながら部屋に向かいました。しかし、鍵が閉まっていて中に入ることができませんでした。ちょうどそのとき夜中の2時を過ぎていました。とても遅い時間でしたが中に入らないとどうすることもできないのでチャイムを鳴らしノックをしました。すると、鍵を開け部屋の扉が開きました。そこにいたのはブロンドヘアに高身長のととても美人の人が出てきました。私はあまりにきれいな人すぎて驚きました。この人と4か月一緒に生活するのだなと思いながら部屋に入りました。部屋に入ってから簡単な自己紹介を済ませ荷物を整理し眠りにつきました。翌日の朝、話しかけてくれましたが何を言っているのか聞き取ることができず、結局英語とジェスチャーでコミュニケーションを取りました。彼女は3回目の中国留学で中国語がとてもペラペラでした。そして、とても優しく大人で面白くとても愉快な人でした。

授業が始まったのは約2週間後あたりでした。授業はすべて中国語で行われていました。最初、私は先生が何を言っているのか全く聞き取ることができず、ただ愕然としていました。周りのクラスメイトはすべてを聞き取れなくても何を言っているのか理解できている感じでした。そんな中での授業はとてもつらく部屋に帰っては宿題と自主学習を一生懸命しました。先生の話すをすこし聞き取れるようになったのはそれから約2か月後くらいでした。中国語を聞き取れるようになったきっかけが四川旅行です。四川旅行とは中国語を勉強している留学生と外国語を教える学科の中国人でグループを作り一緒に各地を回るという事です。私のグループには約8か国の国の違う人がいました。彼らと話すときはもちろん中国語

です。一緒に行動するグループを作る際、みんなの中国語のレベルが同じ人となるように作られています。なので、お互い簡単な単語や表現で会話するので通じるしとても楽しかったです。また、お互いの国の言葉や文化を聞いたり話したりしました。この四川旅行は約1週間もありとても長く充実していました。この四川旅行のおかげで各国の人と知り合い友達になることができました。また、各国の人と触れ合うことでいろんな文化や言葉を知りました。中国語の上達もしましたがいろんな国の人と触れ合い四川の歴史も知り、とてもいい経験ができました。この四川旅行のおかげで私の中国語は飛躍的に伸びました。四川旅行あけの授業では先生の言葉が聞き取れ理解することができるようになりました。そして、ルームメイトとの会話数も増え、お互いの国のことや趣味、今日の出来事などを話しました。とても楽しくよく笑っていました。10月31日は友達とバーに行きお酒を飲んだり、ハロウィンで仮装している人たちと写真を撮ったりしました。いろんな人がいてその人たちを見ているだけで楽しかったです。普通の土日などは日本語学科の中国人と過ごすことが多かったです。一緒に観光したりご飯を食べながら話したり、テストが近くなると一緒に勉強を教え合ったりしました。12月になると帰国する日が近づいてきていることで、世界遺産を見に行き韓国や中国人と遊んで残りの日々を悔いのないよう過ごしていました。1月、最後のテストを終え、中国にいる時しか会えない友達と遊び、写真を撮ったり今までのお礼を言ったり4か月の留学を振り返ったりしていました。

4か月少し中国に留学して、私はいろんな人に出会いました。日本にいたら出会うことはできなかったと思います。ルームメイト、クラスメイト、四川旅行で仲良くなった友達、交流会で知り合った友達たくさんの方がいます。そんな彼らと触れ合っているうち思ったことがあります。やはり国によって性格や文化が異なるという事です。ふるまい方もそれぞれ違うので観ていて面白かったです。韓国等のアジア圏は比較的に勉強熱心だと思いました。授業にも毎日出席し、発言していました。ヨーロッパ系の方は基本元気でした。みんな元気だった中で特に陽気だなと思いました。顔のつくりや体格も違い考え方も違う人と一緒に受ける授業はとても新鮮でとても貴重な体験だったと思います。授業の休憩中、アメリカ人がネイティブの英語で会話していてとても感動しました。生の英語の会話を聞いたことがとてもうれしかったです。なぜなら私は幼いころから海外に憧れていて、アメリカやイギリスのドラマや映画をよく観ていました。さらに、英語をスラスラ話せるようになりたいと思っていたので音声は必ず本人の声にしていました。そして字幕を付けて理解していました。なので、英語や海外に憧れていたの生の英語を耳にしたときはとてもうれしかったです。また、クラスメイトと中国語で会話したり話し合ったりするのも楽しかったです。ヨーロッパ系や欧米の人たちは会話をするとき手をよく使うなと思いました。言葉だけでなく手ぶりも付け足してさらに、表情もとても豊かです。驚いたときやいやな顔、まあまあな顔などいろんな表情を見せてくれました。日本人は手ぶりをあまり使いません。表情も笑顔か真顔がほとんどだと思います。ほかの国の人と話すときに表情の変化や声のトーンが七変化するのでとても楽しかったです。国が違うと話す言葉が違うだけでなく、表情の変化など様々

な変化がありました。そのような変化や違いを見つけることも海外の国の人と触れ合う中での楽しさの一つでもありました。

また、中国に留学して一番一緒に出掛けていたのは中国人です。私は中国人に対してあまりいい印象を持っていませんでした。テレビで中国のニュースを見ると大体悪いことが流れていました。さらに、反日の方がまだいると思っていました。中国に留学する前はとても不安で反日の人に暴言や変な目で見られたらどうしようなどと不安に思っていました。ですが、中国に行ってみるとみんな優しく、私が日本人だとわかっても親切にしてくれました。私は日本のメディアの中国の印象しかなく本当の中国のことを知りませんでした。北京師範大学の生徒で私と話した人はみんな優しくかったです。出会って何時間しかたっていないのに心の壁がなくなって素で話すこともできました。それは、中国人の性格のおかげだと思います。中国人は人と話すときの距離がとても近いと思いました。最初から距離が近いのですぐに仲良くなることができました。また、もし私に困ったことがあれば全力で助けてくれます。そして家族や友達をととても大切にしている人に対して優しく接しているなど思いました。この性格は中国の文化から来ているのではないかと思いました。また、この性格は私のイメージとは全く違いました。やはり、勝手なイメージや外見、周りからの意見を信じるのではなく自分で見たことや感じたことを信じたほうがいいと思いました。また、この留学のおかげで家族の大切さや友達の大切さを知りました。近くにすぎた気づかなかった家族の優しさ大切さは離れてから気づくものなのだと思います。そして、留学中で悩んだことを相談したのも日本にいた幼いころからの友達でした。今いる場所や環境が違っても、困ったときは話を聞いて一緒に考えてくれる友達の優しさがより一層感じられました。この留学のおかげで自分にとっての大切なものに気付けた気がします。また、留学は4か月間と決められていました。なので、4か月と決められた時間の中で自分はどれだけ楽しめて後悔のない留学生活にできるかをよく考えていました。そうすることで、今中国にいる時しか会えない友達とたくさん遊ぼうなど、ルームメイトともしっかり話したいなど、時間を有効に使えることができました。また、ご飯も自分で何とかしなくてははいけません。体に良くて安いものは何かな？とよく考えたり、ネットで野菜や果物の栄養素を調べたりしました。そうして、足りない栄養を中心的に選んで食べたりしました。このようなことは、中国に留学したからしたことです。もし留学していなければ、家族の大切さ友達の優しさ、時間の使い方、食べ物について調べようとも気づくこともなかったと思います。また、留学先で出会ったルームメイト、クラスメイト、友達と出会い、たくさんを知り仲良くなることができなかったと思います。なので、留学に行かせてくれた家族、留学中に支えてくれた友達、ルームメイト、中国で出会った友達、学務課の方々、その他大勢の人に感謝したいと思います。この4か月の思い出を大切に、これからの日々も大切にしていきたいと思っています。









